

蚕繭糸織

ーサンケンシシヨクー

九州大学ソーシャルアートラボは、昨年12月に博多織の織音を素材とする現代舞楽「織・曼荼羅～博多織の機音による」を上演しました。

今回はその関連企画として、博多織ができるプロセスに着目したイベントを行います。博多織ができるまでの時間を逆に辿ると、そこには糸、繭、蚕の存在が浮かびあがってきます。写真やインスタレーション、パフォーマンスといった多様な表現を通して、その存在と変容のプロセスに目を凝らし、耳を澄ましてみませんか。

日時 | 2018年3月4日(日)

展示 | 10:00-18:00

パフォーマンス | 13:30-14:00 / 14:30-15:00

入場無料 (予約不要)

会場 | 「博多町家」ふるさと館町家棟福岡市博多区冷泉町6-10



展示

織をほどくと現れる糸。

糸になる前の繭。

そして繭になる前の蚕。

写真やグラフィック、インスタレーションを通して、蚕、繭、糸、織へと至るプロセスの間に、新たな「景色」が浮かび上がってくる。

写真 | 阿部新平

グラフィックデザイン | 王曦

インスタレーション | 前田智洋

パフォーマンス

蚕、繭、糸、織へと変容する「間」。

その間を「ふるえ」が連結させ、知覚や感覚を呼び戻す。繭を解いて糸にしていくプロセスの中に内在する「祈り」。糸を引く行為のなかに、笙とゴシック・ハープの響きが、浸透していく。

演目 | 《笙・曼荼羅》(藤枝守作曲)

笙 | 渡辺融、財津靖子

ゴシック・ハープ | 中村理恵

糸引き | 池永照美、近藤芳香、簗原愛理

制作 | 九州大学ソーシャルアートラボ、「蚕繭糸織」制作チーム
お問い合わせ | sal@design.kyushu-u.ac.jp
主催 | 九州大学ソーシャルアートラボ
協力 | 「博多町家」ふるさと館、博多織工業組合
助成 | 平成29年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」

